

オオサカン楽員の 楽器の小屋～オオサカンサウンドの源～

楽員と楽器の関係を探る連載企画、第11弾は\\トランペット奏者 高本 智沙！//
楽器へのこだわりや大事にしていることを伺います。

トランペット
高本 智沙 Chisa Takamoto



現在使っている楽器のメーカー名・モデル名は？

◆B♭トランペット
YAMAHA(ヤマハ) YTR-9335CHS
(アーティストモデル)



◆コルネット
YAMAHA(ヤマハ) YCR-6330SH



◆フリューゲルホルン
YAMAHA(ヤマハ) YFH-8315G



いずれもYAMAHA製の楽器を使用しています。YAMAHAの楽器はメーカー特有の精密さがあり、楽器ごとの個体差が少ないので、信頼して選ぶことができます。また、温かい響きが大好きです。

現在使っている楽器を選んだ理由や気に入っているところは？

元々中学生の時に初めて購入したB♭トランペットはYAMAHA製でしたが、その後十数年は恩師の勧めもあり、Bach(バック)製の楽器を使用していました。Bachのどこまでも自由で明るい音色が好きで特に不都合は感じていなかったのですが、2006年に発売されたYAMAHAのアーティストモデルをオオサカンのトランペットセクションの皆さんが持ち始め、どんどんセクションがYAMAHAの音になっていくのを感じ、Bachでは音色や鳴りを合わせていくのは難しいと思ったので現在使用している楽器を購入しました。実際吹いてみると、これまで感じたことのない扱いやすさで、反応が良く、音の立ち上がりがスムーズになりました。音色は整った印象ながらも型にはめられる印象がなく、伸び伸び演奏させてくれる素晴らしい楽器でとても気に入っています。

コルネットについて教えてください。

現在オオサカンのトランペットセクションは特殊管を含め基本的に皆で同じ楽器を持ち音色や音の志向を揃えています。その中でも、コルネットは「それぞれの楽曲での役割を全うする楽器」となるよう、これまで「どのように客席に音を届けるか」と「演奏のしやすさ」の両面から元オオサカントランペットセクションの一員であった松尾さんを筆頭にセクションを挙げて研究し続けてきました。コルネットは時代や国によって形状が少しずつ異なるため、作曲者がその当時どんな音色をイメージしてコルネットパートを書いたのかを理解した上で演奏しなければいけません。また1つの演奏会でトランペットとコルネットを持ち替えて演奏することが多く、お互いに負担の少ないセティングにすることも必要です。そのため、現在使用しているコルネットはメイン楽器であるB♭トランペットと同じマウスピースで吹けるようトランペットジャンクに変更しています。そうすることで、持ち替えの負担を軽減することができ、形状がトランペットに近づく分トランペットと対等に聴こえるパワーが追加されました。もちろん本体はコルネットのため、コルネットの特徴である丸く温かい音色も持ち合わせており、「ええとこどり」の楽器になっています。



しかし、元々バランスが取れた楽器を改造している分、バランスのとりなおしというところでは各管の調整や支柱の位置の変更が必要となり試行錯誤を繰り返しました。定期演奏会などで共演をしたクリストファー・マーティン氏(ニューヨーク・フィルハーモニック首席)やジョン・ハグストロム氏(シカゴ交響楽団)などにも助言をいただき、反映した部分も多くあります。マーティン氏やハグストロム氏も楽器にはかなりのこだわりがあり、それぞれのセクションでの仕事に合った楽器のセティングを追求されていました。アスリートが靴や道具にこだわるのと全く同じで、楽器を自分のためにカスタマイズすることは演奏家として重要なことだとあらためて実感しています。

マウスピースについて教えてください。

◆B♭トランペット・コルネット Parke(パーク)630-270-26

アメリカのシカゴに工房があるParke社のマウスピースを使用しています。これまで使ってきたマウスピースの中でもダントツでレスポンスが良く快適に演奏できます。大きな特徴は、1つのマウスピースを3つのパーツに分解でき、自分用にカスタマイズできることです。どの部分が自分に合っているのか、合っていないのかを正しく見極めるために理にかなっています。2019年にミッドウエスト・クリニック(アメリカ・シカゴ)に出演した際にご縁があり、工房に立ち寄り実際製作されているところを見学させていただきました。かなり精密な機械で製作されており、数値はすべてコンピューター管理されていました。工房の方にお話を聞くこともでき、製品に対する精密さや性能への自信も伺え、益々信頼できるマウスピースとなりました。



◆フリューゲルホルン YAMAHA(ヤマハ) FH-11F4

以前はYAMAHAのボビー・シューモデルなど、今より少し大きいサイズを使用していましたが、そうするとどうしても音が埋もれてしまうので、岡原さんの助言もあり音をシャープにするために現在はこちらを使用しています。



練習の際、常に持ち歩いているものは？

かなりシンプルですが、①ラ・トロンバ(La Tromba)バルブオイル T2、②バック(Bach)チューニングスライドグリス、③ブリマミクロディアクロスです。家の近所に福永管楽器という楽器店があり、信頼できるリペアマンがいっぱいあり、楽器のメンテナンスは健康診断も含め定期的に行っているため、メンテナンス用品はほぼ持ち歩いていません。また、練習や指導の際、スマホアプリのチューナー・メトロノームは多用します。



楽器を演奏する時に大事にしていることは？

私は音を出す際、常に目の前にお客様がいることを意識して演奏するようにしています。もちろん演奏会では実際にお客様がいてくださるのですが、指導先・練習でも本番同様にお客様が目の前にいることを意識しています。私は楽器を演奏することがとても好きで、その楽しみをなるべくたくさんの方と共有したい。その一心でトランペットを長年吹いているのだと思います。



あなたにとって「トランペット」とは？

トランペットを吹くことは永遠の修行だと思っています。自分の力と、時には周りの仲間力を借りながら常に向上することを目指し、人生をかけてする修行です。もう少しで楽器を始めて30年を迎えますが、世界的なアーティストと共演を重ねる度に、まだまだ演奏家として自分の考えが足りないと感じます。これからもオオサカンでトランペットを吹けることに感謝しつつ高みを目指し頑張っていきたいです。